

エントリー学校名： 山口県岩国市立玖珂中学校

活動名： 学校経営の活性化 3つの「し」に注目して
 3つの「し(しくみ・しかけ・しゅうかん)」に注目した学校経営の活性化

解決すべき課題：
 学校経営に関する教職員の『当事者意識』の低さ

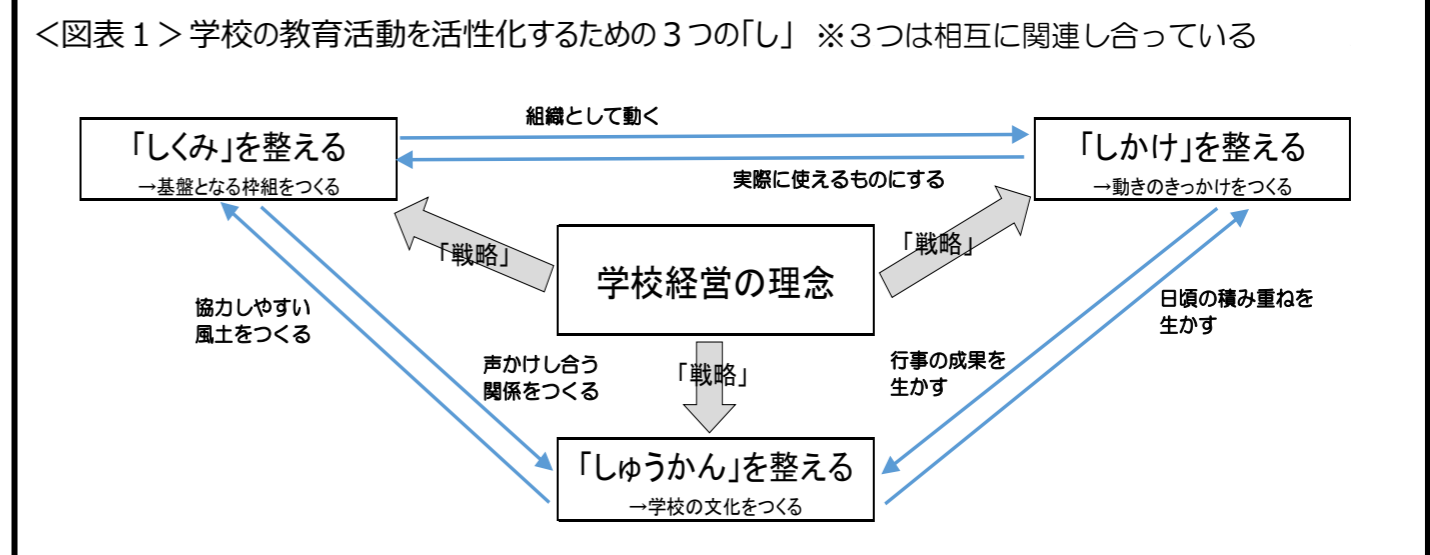
目標・方針：
 全教職員が、個々の資質・能力やキャリアステージを生かして学校経営に主体的に参加する機会を設けることにより、全教職員は自分たちが所属する学校の教育活動に対する関心を高めることができ、結果として、教職員の「当事者意識」の向上が期待できると思われる。

活動内容：
 教職員が学校経営に主体的に参加する状況を生み出すために、3つの「し」に注目して取組を進めた。
 <図表1 参照>
 具体的には、本校が直面する学校課題の中からいくつか取り上げ、その課題解決のためのプロジェクトを立ち上げた。プロジェクトに関わるチームを結成し、課題解決のための対策を企画・提案・実践する場を作った。実際に取り組む学校課題については、生徒の意見も参考にしながら、教職員で協議し焦点化を図った。
 プロジェクト・チームのメンバーは、代表生徒及び教職員の混成とした。また、チームのリーダーはベテラン及び中堅教員を充てるとともに、サブリーダーには経験年数5年以内の若手教員を充てることとした。
 <図表2 参照>
 プロジェクトで取り扱う学校課題や具体的な活動内容については毎年度ごとに見直しを行うこととし、活動の状況については、PTA役員会や学校運営協議会で定期的に報告し、意見を求める予定である。

活動の成果：
1：学校経営に関する企画提案の多様化
 昨年度までは、職員会議における企画提案は、校務分掌上の担当者が行うことがほとんどであり、提案者が限られていた。玖珂中プロジェクトの取組導入に伴い、各チームで協議した企画提案が加わることとなり、提案者の範囲が広がるとともに、その内容もこれまでにないものも多く、多様化が進んだ。結果として、学校経営に対する教職員の当事者意識が、以前より高まったと思われる。
2：生徒の主体的な活動場面の増加 <写真1・2 参照>
 課題解決の過程に生徒を参加させることにより、生徒が主体的に活動する場面を増やすことができた。結果として、これまでの学校教育活動では見ることのできなかつた生徒の新たな可能性を発見することができ、教職員が生徒を価値付ける機会が増加した。生徒の成長を共有する場面が増えたことにより、「わたしの学校」に対する教職員の意識が、以前より高まったと思われる。

アピールポイント(アイデアや工夫)：
 ●通常業務とは異なるメンバー構成による活動で、役割が固定しがちな教職員組織をゆさぶることができた。
 ●チームのサブリーダーに若手教員を充てることにより、立場や経験などにこだわらず多くの教職員の意見を学校経営に反映する雰囲気を醸成し、教職員組織全体の活性化を図ることができた。

●生徒会執行部やPTA役員、学校運営協議会メンバーをまき込むことにより、教職員が通常とは異なる意識で活動に取り組むことができた。特に、学校課題の解決に生徒を参加させることで、教職員の意識向上を図ることができた。<写真3 参照>



<図表2> 令和2年度「玖珂中プロジェクト」の詳細

| | 具体的な内容 | 備考 |
|-------------|--|--|
| 「しかけ」を整える | 学校課題を踏まえたテーマとして、「気持ちの良い挨拶ができる玖珂中生を増やす」「自主学習を行うことができる玖珂中生を増やす」「地域行事に積極的に参加する玖珂中生を増やす」という3つを設定した。 | →学校課題は、保護者や生徒によるアンケート結果及び学校運営協議会の意見を踏まえ焦点化。 |
| 「しくみ」を整える | テーマごとに代表生徒と教職員混成のチームを結成した。代表生徒は生徒会執行部及び専門委員長・副委員長で構成され、各チーム6～7名。教職員は、小中一貫教育推進のために設置している研修の部会と重ねることとした。 | →代表生徒には希望するテーマを選ばせた。 →教職員のリーダーにはベテラン教員、サブリーダーには若手教員を指名した。 |
| 「しゅうかん」を整える | リーダーには、「考えて、やってみて、検証する」ことを基本に、アイデアを実現するように促す。当事者意識をもって学校改善を行う雰囲気醸成に努めた。 | →取組は朝礼や放送などで適宜紹介した。 |

